

石川県

(松任地区)

交信かく乱剤を活用したナシの安定生産

【1. 概要】

- ・ナシ栽培において、性フェロモンを園地内に充満させることにより交信かく乱を起こす、交信かく乱剤を活用し、シンクイムシの効果的な防除を実施
- ・松任地区ナシ産地における導入面積は、5.8ha(産地全体の33%)



図1. ナシ産地における交信かく乱剤の活用

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・ナシの害虫であるナシヒメシンクイ、モモシンクイガによる果実被害が増加し始めたことから、平成20年頃から白山市松任地区のナシ産地においてフェロモントラップによる発生予察を行い、適期防除を行っている
- ・平成24年から交信かく乱剤(コンフューザーN/登録番号第22959号)を利用した防除の普及を図り、平成27年には当該産地17.5haのうち33%に当たる5.8haで実施している(図1)

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・産地とJAが作成している防除暦に、交信かく乱剤の使用時期を明記し、適期に設置することを促した
- ・平成26年に策定した「日本なしIPM実践指標」に基づき、平成27年から環境保全型農業直接支払交付金を活用(対象面積5.8ha)して、当該技術の実践を支援している(図2)

石川県 日本なしIPM実践指標

分類	管理項目		管理ポイント
防除的	生物的防除	ナシヒメシンクイ等 交信かく乱剤の使用	交信かく乱剤を園内に設置して、ナシヒメシンクイ等からの被害を防ぐ。
	物理的防除	ヤガ類 黄色蛍光灯または防虫網の使用	黄色蛍光灯または防虫網を園内に設置して、ヤガ類等からの被害を防ぐ。
防除	化学的防除	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。
		適正な散布方法	散布ムラがないよう、SSは適切な速度、間隔、散布量で全列散布を励行する。
		農薬飛散防止対策	農薬散布は、無風～弱風時に行い、薬液が園外に飛散しないように注意する。
	剤の選択		薬剤感受性の低下を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
			除草剤を使用する場合は雑草の発生状況や草種を確認し、適切な剤を選定する。
秋期防除の徹底		10～11月のりん片感染を防ぐため収穫後(10月中旬から11月上旬)の黒星病防除を徹底する。	
散布後の処理		散布器具、タンク等の洗浄を十分行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等に流入しないようにする。	

図2. 石川県日本なしIPM実践指標(抜粋)

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・病虫害防除について、化学合成農薬だけに頼るのではなく、交信かく乱剤等を組み合わせたIPM技術の活用が効果的であることについて、生産者の意識改革が図られた

【問い合わせ先】

農林水産部農業安全課農業安全対策グループ
電話：076-225-1626